

## 2014年 年頭のご挨拶



代表取締役社長

松井 道夫

明けましておめでとうございます。

昨年は、安倍政権が本格的に動き出し、金融緩和、財政出動などを柱とするアベノミクスに対する期待感とその実績から、株価が大きく上昇した一年でした。日経平均株価は大納会に年初来高値を更新し、今後の上昇を期待できる展開で本年を迎えることとなりました。アベノミクスの真価が問われるのは今年です。大胆な規制改革・構造改革を実行に移せば市場は素直に反応すると思います。

一方で、世界の政治情勢は混迷の度を深めています。覇権を握っていた米国のパワーの衰えがその根底にあるのでしょうか、東アジア情勢も、日中韓関係の悪化により楽観が全く許されなくなっています。欧州問題も解決してはいませんし、中東も様々な問題を抱えています。世界中地雷だらけです。相場は森羅万象を映す鏡ですが、それを予測することなど不可能です。1990年のバブル崩壊から二十数年、端くれの経営者としての経験が、そう教えてくれています。

昨年、弊社の株式委託売買代金は35兆円を超え、過去最高を記録しましたが、今年はこれを大幅に更新します。相場状況に多少は影響されるでしょうが、それとは無関係の差別化要素となるような様々な策を用意しています。私が十数年前に始めたビジネスモデルは、誰でも真似できるという意味でコモディティ化し、過当競争に陥っています。この状態に終止符を打ち、原点に戻すのが目的です。売買代金増というのは、その結果というように見られがちですが、私にとっては目的を達成する為の手段です。創造的破壊、すなわちイノベーションです。破壊が先なのですが、それにより空いた余白を埋める創造が何より肝要です。破壊した者の脳だけが、それに続く創造を考え出す脳に切り替わります。そこには模倣などありません。そのモデルが十年経って陳腐化し真似されたら、又壊して別のモデルを探せばよいだけのことです。商売とはそうしたものだとは私は信じています。

バブル崩壊後の20年は、「失われた20年」とよく謂われますが、本当にそうなのでしょうか。その間、若い世代を中心に新たな芽が出て育っているように私には思えます。ポイントは「組織と個」の関係ですが、ベースには価値観の変化があります。このことは過去に何回も、この「年頭のご挨拶」で申し上げた通りです。その変化が資本市場に影響しない筈がありません。私は、この国とこの国の資本市場が、いずれ大きな変革を経て、本当の輝きを取り戻すと信じています。その一端を担うべく、資本市場の一隅で、イノベーションに全力を傾ける所存です。それこそが真の「企業の社会的責任」と信じているからです。どうか今年も御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、午の年の皆さまのご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成26年 元旦

代表取締役社長

松井道夫